



今月のトピック

まもなく台風シーズン到来！
大切なハウスを守りましょう



台風や大雨を降らせる積乱雲の発生が増える時期となりました。養液栽培システムはハウス内がきれいに整地されており、電気を使用した機器も多く使用しています。大切な生産物とシステムを守るために台風が近づいてきたら被害を受ける前にしっかり対策しましょう。

台風通過前の対策

① ハウスの倒壊・ハウス内への浸水対策

ハウス内に強い風が入らないように天窓を閉め、谷換気やサイドの巻き上げフィルムはスプリングで固定、扉も開かないように紐などで取っ手を縛ります。ハウスの出入口から浸水する可能性がある場合は土のうも準備します。

ハウス周辺は雨水がしっかり排水されるように、排水溝の汚れがないか、明渠排水が土やゴミなどで埋まっていないか確認します。養液栽培では排液の配管を通してハウス外の水がハウス内に侵入する可能性があるため、ハウス外からハウス内へ逆流しないかどうか確認しておきます。

② 機器類の電源を切る

台風接近が夜間の場合や曇天で灌水量が少なく済む場合は、給液制御盤やポンプ等の電源を切り、配電盤のブレーカーを切っておきます。灌水不足によるしおれが心配な場合は、あらかじめココバッグにしっかり給液しておきます。

また、万が一ハウス内に雨漏りや浸水等があった場合に、機器類が濡れることがないかも確認しておきます。



制御盤やプラボックスのフタは閉じておきましょう

③ 停電・断水時の対応方法確認

停電・断水した場合のハウス設備の稼働方法、給液方法を確認しておきます。

- 換気設備の手動での開閉方法の確認**
(手動巻き上げ、電動ドライバーでの巻き上げモーター稼働)
- 台風通過後のしおれ対策のための遮光カーテン**
※カーテンをあらかじめ閉じておくとハウス内に風が入ったときにカーテン設備が故障する可能性があります。状況に応じてカーテンを閉じておくか開けておくか判断してください。
- 手動での灌水方法の確認**
農業用水を直接本圃へ流す方法、電磁弁の開け方を確認しておきます。
動力噴霧器での栽培ベッドへの直接灌水も準備しておきます。
- 発電機の準備**
灌水用ポンプは定格容量の3倍程度の始動電力が必要です。
発電機が準備できる場合は、容量と機器への接続方法を確認しておきます。

④ 葉面散布、灌注処理のための機能性肥料

台風が接近すると曇天が続き、蒸散量が減るため生理障害の発生が増えます。
微量要素を含んだ肥料等、機能性肥料を施用する準備しておきます。
高湿度、浸水による病気発生予防のために、殺菌剤や酸素剤も準備します。

□台風シーズンに欠乏症となりやすい成分

『カルシウム』、『ホウ素』

トマトでは、異常主茎（メガネ）や尻腐れ果、芯腐れ果、イチゴでは、チップバーンなどが発生しやすいです。

□病気の発生予防や病原菌・汚れの洗い流しに

適用病害が多い殺菌剤を選定します。

酸素剤は発根促進や植物表面に付着した汚れの洗い流しにおすすめです。

台風通過後の対策

① ハウスの状況確認

ハウスの破損、浸水、機器類の動作に異常がないか確認します。ただし、機器類が濡れている場合は感電の危険があるため、すぐに電源を入れず、しっかり乾燥してから動作を確認してください。

あきらかに故障が疑われる場合は、機器の電源を入れず、販売店へご相談ください。



身の安全を確保した上で、
ハウスの状況を調べましょう！

② 栽培作物の状況確認

作物の状態にしおれなど異常がないか確認します。

台風明けは晴れて風が強い場合が多いため、しっかり給液して遮光カーテンを使い、しおれ対策します。（曇天と晴天の中間の環境を作ってあげることで、徐々に作物を高温・乾燥に慣れさせていきます）

曇天がしばらく続いており、ハウスも閉め切っていると蒸散量が少なく、生理障害が発生しやすくなるため、微量要素を含んだ機能性肥料で葉面散布をします。

高湿度で発生しやすい細菌病が心配な場合は、殺菌剤散布も行いましょう。とくに浸水により葉や茎が汚水にさらされた場合は病気のリスクが高まりますので、殺菌剤のほか、酸素剤による洗い流しも有効です。

栽培サポート通信付属のチェックリストもぜひご活用ください！